

令和6年産飼料用米は多収品種を作付しましょう

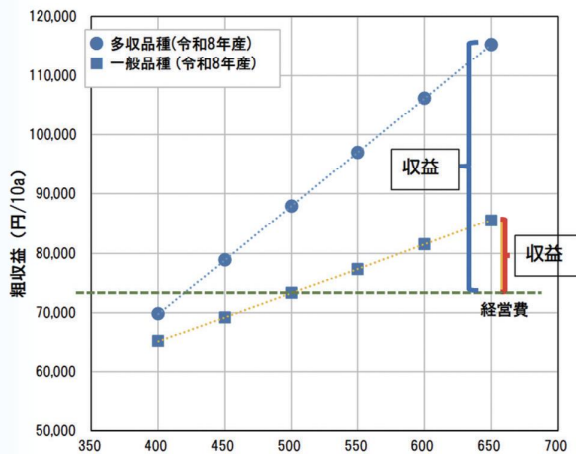
1 飼料用米の交付金単価が変わります！

多収品種による飼料用米の作付けは、限られた面積で、より多くの収量を上げられることにより、飼料自給率の向上に寄与してきました。一方で、国は、作付転換後の定着性が低いことから、多収品種を基本とする本来の支援体系への見直しを決定しています。

令和6年産から一般品種における飼料用米への支援水準が段階的に減額されます。

令和6年産	令和7年産	令和8年産
数量に応じて 5.5～9.5万円/10a (標準単価) 7.5万円/10a	数量に応じて 5.5～8.5万円/10a (標準単価) 7.0万円/10a	数量に応じて 5.5～7.5万円/10a (標準単価) 6.5万円/10a

飼料用米生産における多収品種と一般品種の収益比較



※一般品種のままでは収益減少に！

2 飼料用米の作付け状況

本県における飼料用米作付面積は、15,716ha (R4) と全国1位の作付面積を誇っています。

一方、作付品種の構成をみると、多収品種の作付割合は2%程度であり、飼料用米の多くは「あさひの夢」等の一般品種での対応となっています。県内で作付けされている飼料用米多収品種は、「夢あおば (県奨励品種)」、「月の光 (知事特認品種)」などがあります。管内では、主に「夢あおば」の作付けが一部で行われていますが、大部分が一般品種となっています。

○管内における飼料用米品種構成 (R4年産)

地域	作付面積 (ha)	一般品種	多収品種
栃木市	962	98%	2%
小山市	1,991	97%	3%
下野市	850	96%	4%
壬生町	96	88%	12%
野木町	130	97%	3%

【再生協議会調べ】

3 多収品種「夢あおば」、「月の光」への転換を！

栃木県米麦改良協会では、県内における直近の飼料用米作付面積約15,000ha分をカバーできるよう、令和6年産種子用として県奨励品種「夢あおば」と知事特認品種「月の光」の種子生産を県内2JAで実施しています。

飼料用米生産による安定的な収益確保のために、多収品種「夢あおば」、あるいは「月の光」への積極的な転換を図りましょう。

4 多収品種の栽培のポイント

多収品種の転換に併せて、堆肥等を活用した生産コスト低減技術を導入し、更なる収益性の向上を目指しましょう。

また、管内では「夢あおば」の作型別の栽培適応性を調査中です。結果については、随時情報提供を行っていきます。



実証展示ほ紹介

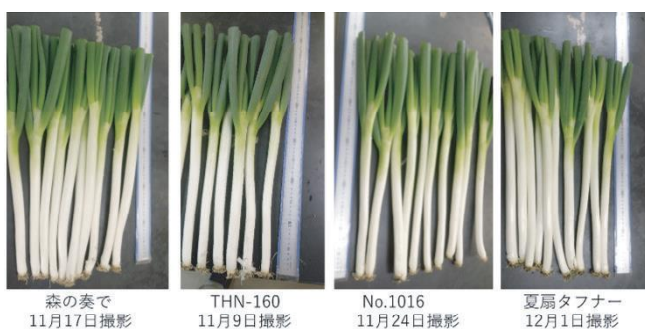
1 ねぎ

露地野菜（ねぎ）の優良品種の選定 及び地域適応性の検証

水田への露地野菜の生産拡大を目指し、重点品種目となっているねぎについて、下都賀地域の水田地帯に合った品種の選定を行いました。

4品種を比較し、単収は「夏扇タフナー（サカタ）」「No.1016（タキイ）」「THN-160（トホク）」が、秀品率は「夏扇タフナー」「森の奏で（トキタ）」が成績良好でした。生育期間が比較的長いのは、「夏扇タフナー」「No.1016」でした。

水田におけるねぎ生産拡大に向け、今回得られた各品種の特徴を参考に、産地の要望に合った品種の導入を進めていきます。



各品種の収穫時の品質比較

2 WCS用稲極短穂茎葉型品種

「つきはやか」の栽培実証

WCS用稲とイタリアンの二毛作での利用を目的とし、早生WCS用稲品種「つきはやか」の栽培特性とサイレージの発酵品質を確認しました。

6月8日に移植した「つきはやか」は8月12日に出穂し、9月14日に収穫できました。後作にイタリアンライグラス「タチマサリ」を11月10日に播種し、余裕をもって草種の切替えができました。

「つきはやか」のサイレージの発酵品質は非常に良く、栄養価が高く、牛の嗜好性も良好でした。

また、「つきはやか」の収量は、1.3t/10aで、後作の「タチマサリ」の0.9t/10aと併せて2.2t/10a(いずれも有水物)でした。

品種を選択する上では、WCS用稲の収量だけでなく栽培体系全体の収量も重要です。草種の組合せも考慮しながらWCS用稲専用品種「つきはやか」、「つきあやか」、「つきすずか」の作付け拡大を推進していきます。



「つきはやか」生育調査の様子

3 いちご（とちあいか）

株間が収量・品質に及ぼす影響

「とちあいか」は「とちおとめ」と比較して大果で収量性が高い品種ですが、先白果などの障害果が発生しやすい特性があります。

そこで、株間の違いが障害果発生や収量に及ぼす影響を調査しました。

障害果の発生率は株間27cm区でやや低い結果となりました（表1）。



表1 障害果発生率及びB品率（%）

株間	障害果	B品
23cm	4.5	3.6
27cm	3.8	3.0

※障害果は先白、先詰まり、不受精果を対象とした

また、可販果収量は株間27cm区が年内は少ないがそれ以降は多く、合計の販売額も高い結果となりました（表2）。

品質・収量ともに株間27cmが有利との結果になりましたが、年内収量の確保に向けた芽数管理などの技術の検討を進める必要があると考えられました。

表2 可販果収量（kg/10a）及び販売額（万円/10a）

株間	11~12月	1~4月	合計	販売額
23cm	970	4,032	5,002	640
27cm	877	4,234	5,111	660

※販売額は各月の販売数量及び平均単価をもとに算出した

スマート農業技術情報

1 いちご

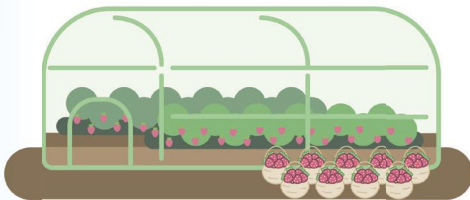
データの見える化による 収量・品質向上

いちごにおいては、若手生産者を中心に4割が環境モニタリング装置を導入しています。環境モニタリング装置を導入することにより、ハウス内温度、地温、炭酸ガスの濃度データ等がリアルタイムで目に見えるため、温度、水、肥料等の管理がしやすく、いちごにとって適切な栽培環境を作ることができます。また、必要量に応じた管理ができるため、肥料や燃料等の削減にもつながります。

現在は個人ごとの活用に止まっていますが、今後はデータを地域の生産者間で共有し、利用者を増やしていくとともに、産地全体の収量・品質向上に向けて取り組んでいきます。



育苗期における環境モニタリング装置の設置



2 畜産

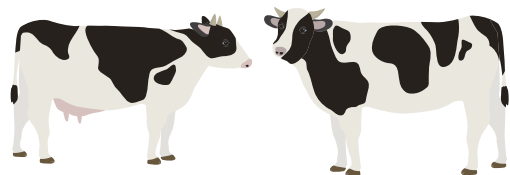
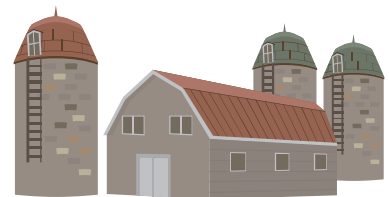
牛の行動モニタリングシステム (U-motion) の導入

牛の行動モニタリングシステムの導入が拡大しています。センサーを牛に装着することで、牛の行動をリアルタイムで把握し、発情や分娩、起立困難をはじめとした異常・疾病に繋がる情報がアラートメールで通知されます。このシステムを繁殖雌牛に導入した事例では、繁殖成績の改善効果が高く、分娩間隔を大きく短縮することができました。経営規模にもよりますが、事故による損失の回避や労働費の削減によりシステム導入費は5年程度で回収でき、繁殖成績改善と子牛生産頭数の増加により導入経費の回収期間はさらに圧縮されることが期待されます。

肥育牛の事故回避や雌牛の繁殖管理には日頃の観察が重要となりますが、注意すべき牛を見逃さないための有用なシステムであると考えられます。



センサー(矢印)を装着した繁殖雌牛とスマートフォン等の情報表示画面



各種情報

1 とちあいか未来創りサポート事業

生産拡大が見込まれるいちご新品种「とちあいか」の評価を高め、主力品種としての地位を盤石なものとするため、県や関係団体が一体となった「とちあいか未来創りサポートチーム」が組織され、下都賀地域においても活動を実施しています。

1 令和5年産における取組

とちあいかは収量性や品質に優れるなどの優良な特性を持っており、下都賀地域においては全作付面積の33%まで拡大しています。一方で、特性を発揮しきれず十分な収量が確保できなかったり、生理障害が多く発生する事例が散見されました。そこで、新規栽培者を中心に個別巡回による聞き取り調査とカルテの作成を実施し、課題の把握と改善に向けた技術支援を行いました。また、暖候期において果実糖度の低下が一部で見られたため、糖度の全戸調査と栽培実態の抽出調査を実施し、次作の対策に向けた検討を行っています。



巡回指導の様子

2 令和6年産に向けた取組（暑熱対策）

現在、令和6年産に向けたいちごの育苗管理が始まっていますが、夏期の高温が重要病害の発生や花芽の分化に悪影響を及ぼします。近年は地球温暖化等の影響により気温が上昇傾向にあるため、その対策の重要性が高まっています。

そこで、育苗期もモニタリング機器を設置して気温の推移を確認するとともに、被覆資材や塗布剤利用による遮光、循環扇や妻面解放などの換気改善で、暑熱対策に取り組みましょう。



対策資料
QRコード

2 栃木県農業経営・就農支援センター （旧 経営相談所）の紹介

本年度の8部門による専門別セミナーは、以下のとおり計画しています。

部門名	時期	内容
経営	7月21日	経営改善相談会
土地利用型	8月8日	スマート農業夢あおばの導入に向けた研修
露地野菜	8月	さつまいも現地研修会
果樹	9月	優良品種検討会
花き	11月	病害虫防除研修
畜産	11月	子実とうもろこし現地研修
いちご	11月	とちあいか高品質多収生産技術研修会
トマト	12月	ベルグアース(株)育苗研修会

3 とちぎ農業経営・就農支援センター 専門家の派遣

農業者の皆様に、経営管理の合理化や改善、経営継承、法人化のために必要な助言や援助を行い担い手の確保・育成を図る体制を整備しています。

【専門家の分野】

司法書士、中小企業診断士、社会保険労務士、税理士、日本政策金融公庫、農業革新支援専門員

【連絡先】

事務局：栃木県農業振興公社
宇都宮市一の沢2-2-1 3 アグリプラザ内
TEL 028-648-9515

※詳しくは、サテライト窓口（下都賀農業振興事務所 0282-24-1101）へご相談ください。

認定農業者協議会通信

地区認定農業者協議会総会結果

令和5年度下都賀地区認定農業者協議会の定期総会が4月25日（火）に開催されました。

今年度の役員体制は、以下のとおりです。

役職	氏名	所属
会長	石嶋 元朝	下野市認定農業者連絡協議会
副会計	荒川 東彦	栃木市認定農業者協議会
会計	鈴木 進吉	壬生町認定農業者協議会
監事	老沼 利治	野木町認定農業者協議会
監事	福田 洋一	小山市認定農業者協議会

肥料高騰対策研修会開催

認定農業者協議会では、総会と同時に研修会も実施され、生産者が出来る肥料高騰対策について、県経営技術課の講師を招いて御講演を頂きました。



肥料高騰対策研修会

農業関係団体 青少年クラブの活動

下都賀地区青少年クラブ協議会は、管内5市町青少年クラブ協議会から地区役員を選出し、県協議会や関係団体と連携し、活動しております。

地区内外のクラブ員との交流会や専門別のニューファーマーカレッジ開催、農業青年実績発表会の開催など、主体的に行っています。昨年は、県協議会と共に幼稚園児に花苗の植付け体験を行うフラワープロジェクトも行い、喜ばれました。



栃木市ひらかわ幼稚園で園児と体験教室

現在、会長は野木町の岩崎千昌さん、副会長は小山市の知久匠さん、県協役員には壬生町の大垣祐司さん、小山市の小林柁徳さんが就任し、毎月の役員会で、参加し易い活動を練っております。

会員数は小山市11名、下野市8名、壬生町9名、野木町8名の合計36名です。なお、栃木市は、前年度から残念ながら会が休止になっています。

今、クラブ員の情報伝達はLINEで、各位がインスタグラムで自己紹介している時代です。

発行

栃木県下都賀農業振興事務所
栃木市神田町5-20

経営普及部 ☎ 0282(24)1101
FAX 0282(23)6563



下都賀農振

検索

